

国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催

11月12日、四国森林管理局において「四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」を開催しました。

【詳細は2頁】



国有林野等所在市町村長連絡協議会

（左側：川端国有林野部長、右側：国有林所在市町村長代表世話人の皆様）



国有林野等所在市町村長連絡協議会を開催



一月二日、四国森林管理局において「四国国有林野等所在市町村長連絡協議会」を開催しました。

本協議会は、地域社会と

国有林野事業の連携強化を図り、地域産業の振興、住民福祉の向上に寄与することを目的に開催しているものです。

會議には管内七署（所）

の有志協議会の代表世話人である市町村長、大山局長をはじめとする局幹部、そして、林野庁から川端国有

林野部長、川浪技術開発推進室長が出席し、協議会会長である上治馬路村長の議

事進行により、今年度のテーマである「森林・林業と地方創生への取組」について、意見交換を行いました。



四国国有林野等所在市町村
長連絡協議会

た。

市町村長から出た、主な意見・提言等は次のとおりです。

○ 鳥獣害対策での連携をお願いしたい。最近シカだけでなくサル被害も深刻化している。

○ 安全面の指導を踏まえた人材育成の取組の推進に協力願いたい。

○ 高齢化により架線集材の技術を有する者が減少してきており、技術の継承が課題。

○ 国有林林道の民有林と一体的な計画、整備をお願いしたい。

これらの意見・提言等について、熱心な意見交換が行われました。四国森林管理局としても、これらを踏

高校生現場実習

まえ、より一層公益重視、有林の管理経営に取り組んでいきます。

～農業高校生を対象にした森林環境教育を実施～

〈治山課・森林整備課・技術普及課〉

当森林管理局では、高知
県立高知農業高等学校森林
でいます。

総合科の全学年を対象にし、この森林環境教育は、森

林総合科のカリキュラムとして実施しており、一年生二二名は一〇月二六日に千本山登山、二年生一八名は一〇月九日に、高知中部森林管理署管内で治山工事、三年生二〇名は一〇月二二日に同じく高知中部森林管理署管内で林道工事の現場実習を実施しました。

治山工事では、「治山の

林道工事現場にて(三年生)



森」で治山事業の概要を学習した後、治山ダムや山腹工事の現場へ移動して工事の実施状況を見学しました。今年は特に、集水井工(井戸)の見学もすることができました。生徒達は、工事の規模などに驚いた様子で、熱心にメモをとっていました。

また、林道工事では、災害復旧工事の施工について

学習しました。残念ながら、

授業で学習中の新設工事ではなかったのですが、現場工事担当者から、施工の技術面について詳しい説明を受け、生徒達も真剣に聞き入っていました。

また、すでに林業関係に就職が内定している生徒からは、「集材架線と森林作業道を作設して行なう場合、集材作業の作業効率はどうだろうか。」などの専門的な質問を受けました。

両工事とも、授業での図面や写真だけでは異なり、普段、見る機会の少ない現場や、施設、工器具に触れることができ、生徒達は終始興味津々で、現場の大変さも痛感したようでした。

た。

今後とも、当森林管理局では、林業を専門に学んで

いる高校生の学習支援に取り組んでいきます。



一〇月三十一日、一般公募により参加いただいた方々

会と共催により、開催したものです。

二〇名による室戸市の佐喜浜^{はま}躍動天然杉郷土の森を訪ねるツアーを行いました。

参加者は、先頭を登る案内人の冗談を交えた樹木等の説明に笑いが絶えることなく、また、ユニークな姿

今回のツアーは、室戸市が世界ジオパークとして認定され、このエリアも注目されていること、また、東部博で地域が盛り上がっている中、天然杉の巨木が群生している中を散策しながら、地元の文化や歴史を感じてもらおうと、四国仰山

で勇ましくそびえている巨木の杉たちに時の流れを感じ、しばらく立ち止まって見上げていました。途中には滅多に見られない『ヒロハノミミズバイ』の花を見ることができました。

また、登山コースの歩道

この変形木は、凄いな(天然杉)



も整備されていて登りやすいと参加者からも大変好評でした。

当日は、土曜日開催ということで、小中学生を含む親子二組の家族の参加がありました。

現地まで片道三時間を超える遠距離移動で、また、道幅が狭く、三台に分乗してのツアーとなりましたが、巨木杉のパワーのせ

いか、参加者は、終始疲れた。

を見せることなく、帰りの車中では、早くも来年のツアーはどこへ行こうかという話などで盛り上がりまし

今回のツアーで、少しでも自然に触れ、森林の素晴らしさ、大切さを感じてもらえたと思います。

森林ふれあい推進事業

く千本山と森林鉄道遺産を訪ねてく



一月七日、日本森林

うことで、親子で参加され

業振興会との共催により、高知県馬路村において、「魚梁瀬千本山と森林鉄道遺産を訪ねるツアー」を開催しました。

た方もいました。バスの中では「中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会」が作成したビデオを見て、事前に森林鉄道の歴史について学びながら、最初の目的地に向かいました。

当日は、公募による二名が、「馬路村公認むらの案内人クラブ」の清岡さん

安田川沿いの森林鉄道遺産の明神口橋とオオムカエ

案内の下、ツアーに参加しました。

隧道では、バスから降りて

今年は、土曜日開催とい

先達の施工技術などについ

て詳しい説明を受け、建設に携わった人々の苦労や森林鉄道が走っていた時代の村の繁栄に思いをはせていました。また、魚梁瀬ダム展望台でも説明を聞きながら見学しました。

それぞれの目的地に向かう車中では、案内人のユーモアを交えた、馬路村の今昔や森林・林業の歴史など



森林鉄道乗車体験

(魚梁瀬丸山公園)

の大変貴重なお話により、笑いが絶えず退屈する暇がない時間となりました。

魚梁瀬の丸山公園では、復元された森林鉄道に体験乗車し、童心に返るとともに、当時の生活を感じるこ



千本山森林内散策
(雨もまた良し)

当日は、あいにくの雨模様で、残念ながら安全面を考慮して千本山登山を中止し、登山口にある森の巨人たち百選に選ばれた「千本山橋の大杉」付近を千本山の現状や、珍しい樹木等の話を聞きながら散策するのみとなりました。それでも、

参加者の皆さんは雨に濡れ

たヤナセスギとのふれあい

その後は、「杉の家」で

木工教室を開催し、クリス

マスリース作りを楽しみまわした地面に感動した。」

参加者からは、「登山が
できず残念だったが、雨の
千本も良かった。」「ふわふ



第一〇回「いの町太陽が

育む森」交流活動が、高知
県の町と太陽石油株式会
社で森林整備の協定を結ん
でいる、いの町程野清水に
ある「交流の森」で十一月
一四日に開催され、太陽石
油グループの社員と家族や
OB約五〇名が参加しまし
た。

この交流活動は、太陽石
油株式会社総合エネル

を当森林管理局に実施して
欲しいとの依頼がいの町か
らありました。

当日は、生憎の雨で間伐
作業とトレッキングは中止
となりましたが、開会式の
後、バウムクーヘン作り・
木工教室を森林生態学修館
で実施しました。

森林教室には、二五名の
父兄が参加し、最初に一〇



講義する森田課長補佐

木工教室の様子



耳を傾ける親子など楽しく
学習ができました。全体的
には、少し難しかったので
すがその中でも全問正解者
が一名いました。

問のクイズを全員にやって
もらい、その後一問毎に正
解とその説明をするという
形で行いました。

愛媛県からの参加者が多
数を占める中、クイズでは
高知県の森林率は？の問い
に天井を見上げる父兄、本
当にある木では、ショウベ
ンノキに大爆笑、また、森
林の働きの説明では熱心に
とが出来ました。

木工教室では、「箸置き」

作りに二組、「クリスマス
スドアノブ」作りに四組が
挑戦しました。「箸置き」

は予めキットを用意しそれ
を組立てる作業で比較的簡
単に出来上がっていました
が、箸の先を削るのに使い
慣れないナイフを駆使して
世界で一つしかない「マイ
箸」作りを楽しみました。

一方、「クリスマススドアノ
ブ」作りは大人が三名、子
供一名ということで子供に
指導を集中してやることに
よって時間内に完成するこ

それぞれ出来上がった親子には、記念カードや来年のカレンダー（森林鉄道）をプレゼントしました。その後木工作業が終わった児童たちは、順次ビンゴゲームでゲームを楽しみ、ジーゼミやケロケロカエルをゲットしました。

最後に閉会式でいの町の



一〇月三〇日、当森林管理局研修室において、高知県日高村立日下小学校の四年生に森林教室を行いました。

この森林学習は、学年担当の先生から、『色々な企

課長が挨拶をしている間もセミやカエルの音で挨拶が聞こえないほどでした。

全体としては、予定していた時間通りに進み、前回の教室で用いた指導方法を試すことが出来まずまずの森林木工教室になったのではないかと考えています。

業に行って学習する。」の一環として森林管理局で森林の授業をしてもらえないか。』という要請により開催したものです。

当日は、最初に日下小学校周辺の川について、クイ

ズ形式で、「みにみにクイズ」を行いました。

次に、樹木学習として、ホワイトボードで広葉樹と針葉樹について説明した後、二人一組になって針葉樹七種類、広葉樹五種類を分別してもらいました。どの児童も真剣に一枝一枝



樹木学習

じっくり観察し、手触りを確かめ、匂いを嗅いで、時間をかけて考えてもらいました。やはり、「ナギ」は広葉樹（葉が広いため）、「ヒイラギ」は針葉樹（葉の先が尖っているため）と大半の児童が間違い、「ナギ」は葉は広いけど針葉樹なんだよ。と説明すると驚きの声があがっていました。

また、「タラヨウ」の葉に日付と自分の名前を書かせ、別名「ふみの木」といって、手紙がわりにしていたことを説明すると、まともや驚きの声があがりました。

最後に「森林のはたらき」について、プロジェクターを用いて学習しました。口頭で説明し、ホワイトボー

森林の働き



ドに「緑のダム・食物連鎖・光合成・木材・山崩れ防ぐ」などと重要なキーワードを書いて残していきました。全児童が最初から熱心によくメモをとっていたので、それらもきちんと書いてくれました。

最後に、児童からは「広葉樹と針葉樹の違いがわかった。」「葉の裏に縦線が

あるのが針葉樹ということ
がわかった。」「目下川の源
流点が佐川町だと聞いて
びっくりした。」などの感
想がありました。

今後も、創意工夫しなが

ら、有意義な森林教室を
行っていきたいと考えてい

ます。

コンテナ苗を活用した低コスト

再造林技術現地検討会等を開催



一月九日、高知県吾川

郡いの町戸中の民有林（高

知県の実証試験地）におい

て現地検討会を、翌日は、

当局二階大会議室において

意見交換会を、高知県、森

林総合研究所、当森林管理

局の合同主催により開催し

ました。

コンテナ苗を活用した再

造林技術については、全

国的に、民国とも喫緊の課

業システム実証試験地で行

い、苗別（コンテナ・普通）、

地拵えの有無、植栽時期別

（運搬当日植栽と現地で一

く四週間保管したコンテナ

苗植栽）を組み合わせて八

月に植栽したプロットにつ

いて、高知県から試験内容

の説明を受けました。参加

者は、作業条件や方法等を

確認しつつ、各プロットの

苗木の活着・成長状況等を



現地検討会

ヒノキコンテナ苗



熱心に観察していました。

なお、現地検討会は、地

元民放局の「高知さんさん

テレビ」が取材し、当日夕

方のテレビで報道されまし

た。

翌日の意見交換会では、

当局の田口森林整備部長か

ら「低コスト化に有効な手

段である一貫作業でのコン

テナ苗の活用など喫緊の課

題である林業のトータルコ

スト低減に向けた取組を強

化したい」旨の挨拶があり

ました。

その後、高知県から試験

地の事業実施時のビデオ上

映及び試験調査結果、当局

から低コスト再造林に係る

取組状況、森林総合研究所

から全国の一貫作業システ

ム実施状況等の報告の後、

参加者からは、試験地の苗

木の運搬方法や苗木の現地

での保管状況（保管方法、

気温・雨量等）、現地保管

期間と活着率の相関関係等

について熱心な質疑・意見

が続き、コンテナ苗の活用

による低コスト技術への期

待、関心の高さが伺えまし

た。

事業発注者である国有林

は、コンテナ苗の導入拡大・

普及等に取り組んでいるところですが、全国の各機関の皆さんと直接意見交換をすることで、改めて、民有林との情報共有・連携を強化するとともに、局署（所）をあげて、事業レベルでの低コスト化の実証等を推進し、課題の早期改善・解決に向け貢献していく必要があることを再認識したところです。

各地のたより



いらすやま
不入山

フィールドワーク

「ふれあい推進センター」



一〇月二八日、高知県立四万十高校の一年生自然環境コースの生徒六名と教諭

三名を対象に、『通称…西の千本』『以下…西の千本』と「四万十川源流点」で森林教室を開催しました。

この森林教室は毎年恒例

となっているもので、地

元の中学校・高校合同での

森林学習ということで計

画していますが、今年は、

各中学校の日程が合わず、

四万十高校のみでの実施と

なりました。

四万十川源流点のある

いらすやま
不入山を訪れ、森林生態系

の成り立ち及び本来の森の

構成を学習するとともに、

四万十川源流点にて



当地の人工林スギ

展示林は、植栽後

一〇八年経過し、

平均樹高は三五m、

平均胸高直径は、

六〇cmとなってお

り、ヤナセスギに

対し、当森林管理

局管内の西部にお

いて特に優れた人

工林であることが

ら「西の千本」と

呼ばれていることを説明し

ました。

その後、バーテックス(樹

木の高さなどを測る機具)、

を使って木の高さを測る学

習を体験し、また、大木の

幹を生徒達が手を繋ぎ囲ん

で、その大きさを実感して

いました。生徒達は、人工

林でも一〇〇年以上の森には、大木が育っていることに驚いていました。

その後、郷土の森(四国森林管理局と津野町の保存協定林)を通して、源流点まで行きました。

生徒達は源流点で、四万十川の最初の流れを見て触れて、「源流点の水は冷たくて、とてもきれい。」「水たまりにはサンショウウオがいたのでびっくりした。」と話していました。

この森林学習を通して、私達の生活を支える水を育む森への関心・理解が一層深まったことと考えます。

二校で八面山登山 体験学習

《ふれあい推進センター》



一〇月二十九日、秋が深まった八面山へ、高知県四万十市立西土佐小学校五年生二二名と教諭三名、



西土佐小学校、ブナ林でネイチャーゲームの様子

十一月一二日には愛媛県松野町立松野西小学校四年生二六名と教諭二名を案内して、八面山登山体験学習を行いました。

準備運動の後、登山口を出発し、歩道沿いの樹木やニホンジカの被害などを学習しながら、約五〇分で八



松野西小学校、ブナ林で森林教室

面山山頂（一、一六五m）に到着しました。

山頂では、遠くに見える三本杭（一、二六六m）のすぐ右の山、横の森という所に、藩政時代、土佐藩と

宇和島藩と吉田藩とがそれぞれ領地の境として杭を立てていたことから、それがいつのまにか「三本杭」という現在の山の呼び名になっていることを話すと、驚いていました。

その後、八面山吊尾根のブナ天然林へ移動して、職員より、森林の持つ様々な働きを説明した後、自然散策やネイチャーゲーム「カモフラージュなど」をして楽しみました。

この森林教室で、実際

に木や土に触れたり落ち葉を踏みしめる体感を通して、森林への興味や関心が深まり、森林学習の一助になったものと実感しています。

しまんと黒尊 むらまつり



秋も深まった十一月四日、高知県四万十市西土佐黒尊の黒尊親水公園で、黒尊川流域の住民グループ「しまんと黒尊むら」と「四万十くろそん会議」の主催で、第一〇回「しまんと黒尊むらまつり」が開催されました。

当センターは、四万十森

来賓あいさつの
田口森林整備部長



林管理署の応援もいただき、「みんなで作ろう」コーナーで、マイ箸作りやクマのストラップ作りの担当をしました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、周辺の三原村や土佐清水市からの団体客など沢山の来場者で賑わい、老若男女にマイ箸作りやク

マのストラップ作りを楽しんでいただきました。

メイン会場となった親水公園では、地元の食材をふんだんに使った巻き寿司、炊き込みご飯、山菜おこわ、猪汁、シカの串焼きなどが所狭しと並び、買い求める人の行列が絶えませんでした。



みんなで作るコーナーの様子

また、紅葉を近くで楽しんでもらおうと企画された

「神殿橋紅葉狩りツアー」も人気で、来訪者は地域の料理を食べて、紅葉を見て、黒尊溪谷を満喫された一日でした。



一〇月一四日、愛媛県松野町立松野西小学校四年生二六名を対象に、一二月二四日には、高知県宿毛市立小筑紫小学校五年生一四名を対象に、「水の土壌浸透実験」を実施しました。

両校ともに、毎年度「総合的な学習の時間」を利用

水土壌浸透実験の様子
(松野西小学校)



して森林や樹木等の学習をしており、これまで三回の森林教室を実施しました。四回目となる今回は治山模型を使って「森林のある山」と「森林のない山」を再現し、二班に分かれて、ジョウロで雨を降らせて実験し、森林の持ついろいろな働きについて実験しまし

た。

樹木や枯葉を通して出てくる水は、薄い濁りでビーカーに溜まっていくなに対し、木も枯葉もない土がむき出しの模型からは、いつまでも濁った水が溢れるように流れ、家の模型が傾くたび、児童達からざわめきが起きました。土がはがれて底板が見えるまでになった「森林のない山」の模型と、変化の少ない「森林のある山」の模型と、それぞれ水を入れた量や水の出た量を計算して、その変化の違いを比較するなど、この実験の様子を、しっかりとメモをとって学習をしていました。

実験後には、パネル等を

使って、森林には「水を蓄える」、「土砂崩れを防ぐ」、「快適な環境を作る」など大切な働きがあることをふりかえり学習しました。

最後に児童から、今日の実験等を通じて感じたことの発表があり、「森林のない方の山側には、家を建てて



水土壌浸透実験の様子
(小筑紫小学校)

住みたくないです。」「森林の無い山の方が森林のある山より、水が多く出て驚いた。水の色も全然違った。」等の感想が述べられました。両校ともに、森林教室の回数を重ねて学習してきた結果、森林の持つ大切な働きについての理解が一層深まったと感じました。



十一月六日、徳島市立宮井小学校と連携して、一年生二三名、二年生児童一三名を対象とした森林教室を実施しました。

宮井小学校での森林教室

は初めてでしたが、他校で森林環境教育を実施した時の先生が転勤で来られて、「宮井小学校でもやって欲しい。」との要請により実施に至りました。はじめに、クイズを交えながら森の大切さの話をを行い、「森の贈り物」の紙芝居を行いました。



動物マスコット完成

その後、「昆虫」や「動物」のマスコット等の木工製作を行いました。児童たちには、事前に準備していた、木の土台や輪切りに木の実や小枝、端材等を使い、工夫しながら作ってもらいました。児童は、目を輝かせ夢中になって、作品を作っていました。

最後に完成品を見せ合い「楽しかった」との感想をもらい、森林教室は楽しい雰囲気の中、終了しました。児童の中には「じいちゃんの家が田舎やから、どんぐりや木の実をいっぱい拾ったことがある。」「今日、学校に来るときにどんぐり拾うて来た。」などと、作品を作りながら話してくれ

た子供もいて、「自然に触れ合っているんだ。」と嬉しく思いました。これからも学校や地域の要望に応えられるように、「楽しく分かりやすい」森林環境教育を実施していきたいと考えています。



一〇月一七日及び一八日の両日、愛媛県久万高原町の恒例イベント「第四五回久万林業まつり」が同町のおまつり広場外で開催され、大勢の家族連れや観光客などで賑わいました。

町内の林業関係者らでつ

くる実行委員会が毎年開催し、林業をメインとしたこのようなイベントは全国的にもめずらしく、林業にまつわる資料や新製品、研究成果などの展示のほか、特産品や音楽ライブなどの催しもありました。

当署も毎年参加しており、今回も技術普及課の応援のもと、石鎚山系に生育する珍しい植物の写真パネルや、間伐材で作られた様々な置き物の展示と、主に小学生を対象に間伐材を使用した「木のプレートづくり」や「ハロウィンのドアノブ飾りづくり」コーナーを設け、二日間であつた親子約一五〇組がチャレンジしました。

木のプレート作り



毎年来てくれる親子も多く、「いつも楽しみにして来ています」と話しながら、どんな模様にしようかと頭を抱えながら絵を描き、枝などで作った昆虫部材を貼り付ける作業をしていました。

準備していたテーブルがいっぱいになり、待ち時間

が長くなるため、残念ながらあきらめて帰る親子もいるほどの人気を集めていました。

屋外では、家族連れらに無料提供された町内産のスギ材を使い、親子で協力して切り分けた木を丁寧に組み立て、日曜大工に汗を流す姿が見られ、このイベントで木材にふれあう貴重な機会が多かったのではないのでしょうか。

当署としては、このような林業の活性化に繋がる行事には今後とも積極的に参加し、国有林のPRを行うとともに、たくさんの方に木に親しんでもらいたいと思います。



一〇月一九日、高知県宿毛市立片島中学校の三年生四九名と先生六名が、森林

の大切さや保全に関する正しい知識を得て、これからの環境保全や生態系環境のあり方について学び、森林が生活にどのように関わっているかなどを体感する森林学習を目標にした篠山登山を行いました。

篠山は高知県宿毛市と愛媛県愛南町、宇和島市の予土県境に位置し、古来より霊山として地元の人々から親しまれている地域の

シンボリックな山で、駐車場

から約1kmと比較的、短時間で登ることができます。

前回に引き続き、篠山を管轄している当森林管理署と愛媛森林管理署の職員により生徒達をサポートしました。

登山前には、森林についての学習、篠山についての説明、現在取り組まれているアケボノツツジ保全活動、安全な登山についての注意などを行いました。

普段は山に登ることがないという生徒達でしたが、みんな快調な足の運びで故郷の山を登りました。登山中には、タイミングよく山伏の修験者がホラ貝を吹くという場面にもで

篠山での森林学習



あうことができ、また、樹齢一四〇〇年といわれる大杉に触れ、木の持つパワーを感じ取る姿もみられました。

秋晴れの好天に恵まれ、はるか石鎚山や宇和海が見え、四国の折り重なる山並みに皆、感激しているようでした。

来春には中学校を卒業しそれぞれの進路に進む生徒達ですが、今回の登山を原体験として、自然や山の魅力を感じとり、森林や林業等に理解を持つてくれることを期待したいと思います。

蛭湖まつりに

木工教室で参加

〈四万十森林管理署〉

一〇月二五日、高知県宿毛市にある中筋川ダムで開催された「第二〇回蛭湖まつり」において、「木工教室」を開催しました。

「蛭湖まつり実行委員会」

では中筋川ダムを地域の交流拠点として位置づけ、イ

ベントの開催の場や、体験学習の場、様々な情報発信基地等として利用し、地域の活性化を図り、来訪者に対して森林やダム河川等の重要性をアピールし、治水事業に対する理解を深めるための活動を行っています。

当森林管理署も実行委員会のメンバーとして毎



木工教室、大盛況

年、このイベントに参加しています。

今年は、秋晴れの好天に恵まれ、たくさんの方々が来場があり、ダムを知るコーナーや環境コーナー、防災コーナーをはじめ多彩な催しが開かれ、ダムサイドは終日にわたって大いに賑わいました。

当森林管理署が実施した木工教室には親子連れやちびっ子がひっきりなしに訪れ、木のメダルやキーホルダー、クマのストラップなど個性あるユニークな作品をたくさん作っていました。

秋の日差しの下、大人も子供もできあがった作品を手にして笑顔が広がっていました。

ました。

こうした木にふれるイベントにより、森林や樹木、自然に対する理解が少しでも広がることを期待して、今後もこうした活動に取り組んでいきたいと考えています。

国有林を活用した

研修会の開催

〈四万十森林管理署〉

十一月一日、幡多流域林業活性化センターの研修会を当署の間伐事業地で開催しました。

幡多流域林業活性化センターでは、生産事業に関する研修を積極的に開催しており、今回が三回目となっ

ています。

今回の研修のテーマは、

- ① 高性能林業機械（ハーベスタ）のデモンストレーション
- ② 繊維ロープを活用した集材

でした。

当日は、素材生産を実施している森林組合や林業事業体、四万十市、宿毛市の林業担当者、高知県森づくり推進課、木材増進課、幡多林業事務所、当森林管理署などから約六〇名が参加しました。

研修は、当署の榎郷山国有林の間伐事業地において、事業を実施している事業者の協力を得て実施したもので、当署の資源活用担

当職員が幡多林業事務所と連絡を取り、スケジュールの調整や事業者との打ち合わせなど研修準備を行いました。また、当日は事業地にたくさんの人が集まるため、狭い作業道に何十台もの車が入ってくることから、当署の職員がその誘導や整理などを積極的に行いました。



ハーベスタのデモンストレーション

今回の研修は、参加者に

とって興味深いものだったようで、午前中に行われたハーベスタのデモンストレーションでは、広葉樹で

も材の伐倒から枝払い、玉切りまでの一連の作業を効率よく行えることに感心していました。更に、午後の繊維ロープ集材では、ワイヤーと違って取り扱いが楽な繊維ロープの特性を活かして、ロープの先端に取り付けた荷掛け用フックを道下四〇mまで投げる様子に歓声が上がっていました。

当森林管理署では、今後もちょうした民有林と国有林が連携した取り組みに積極的に関わるることによって、地域の林業振興に貢献して行きたいと考えています。

当日は、雨という生憎の天候ではありましたが、仁淀川町、いの町、本山町の職員はじめ各林業事業体及び徳島県、香川県の種苗生産者、高知県種苗緑化協同組合、株式会社サンテクノなど、当署・四国森林管理局の職員併せて四五名が参加し意見交換等を行いました。

コンテナ苗 植栽現地検討会

〈嶺北森林管理署〉



当森林管理署では一一月一三日、高知県仁淀川町若山谷口両平山国有林二八七林班ろ小班において、コンテナ苗植栽現地検討会を開催しました。

当日は、雨という生憎の天候ではありましたが、仁淀川町、いの町、本山町の職員はじめ各林業事業体及び徳島県、香川県の種苗生産者、高知県種苗緑化協同組合、株式会社サンテクノなど、当署・四国森林管理局の職員併せて四五名が参加し意見交換等を行いました。

現地検討会



た。

に取り組んでいきたいとの挨拶がありました。

つぎに、総括森林整備官から平成二六年度植栽箇所と平成二七年度植栽箇所とを説明をし、宮ヶ平・池川首席森林官からは活着調査の方法と活着率の説明のほか枯損原因等の説明をしました。

まず、主催者である当森林管理署長より、今後、主伐・再造林が確実に増加していく中、造林経費の低コスト化が喫緊の課題であり立木販売・生産事業とコンテナ苗を活用した造林事業の一括契約等によりトータルコストの低減を図るなど、国有林としても積極的に

今回、高知県種苗緑化協同組合及び株式会社サンテクノの方々に参加されていたことから、種苗緑化協同組合が、コンテナ苗についての説明、サンテクノからは、実演による植栽専用器具の説明がありました。

参加者は熱心に聞入り、コンテナ苗の単価について

の質問や、植栽器具についての要望や問題点などの意見が出されていました。

平成二六年度にスギコン

テナ苗を植栽してから約一年が経過していることから、実際に三本を掘り起こし苗木の根張り具合を検証しました。植栽後一年ということもあり大きく根が張っている状況ではなかったものの、種苗生産者からは「一年ではあれぐらいのものが、二〜三年目から根が張り出す」等の説明がされるなど活発な意見交換の場となりました。

最後に、今後さらに民国連携や造林コスト等の技術開発が重要となってくる状況の中、このような現地検

討会を開催することは情報を共有するためにも大切なことだと改めて考えさせられた一日でした。



嶺北森林管理署においては数十年前から、本山警察署、嶺北消防署、旧本山営林署の三署で毎年度初めに三署会議を開催しております。

今年の会議の中で近年の登山ブームで山岳遭難者の発生率が高まっていることから、国有林を利用した合同救助訓練を実施することになり、十一月二六日に実

合同救助訓練の開会式



施しました。

当日は、高知東警察署及び本山庁舎の警察官一五名、嶺北広域行政事務組合消防本部嶺北消防署八名、航空隊地上班二名、嶺北森林管理署一三名の合計三十八名が参加しました。

午前中は、白髪山から奥工石山へ縦走中にスズメバ

チに襲われ走って逃げているとき右足を痛めて動けない登山者がいると想定した訓練を行いました。遭難者から警察署へ連絡があった場所が不明との想定で二班（一班約一五名）に分かれて搜索を開始しました。各機関の通信機器の状況を確認し林内へ搜索に入り、数十分後遭難者を発見し容体の報告、応急手当後、舟形担架により搬送を開始。途中搬送要員を交代しながら林道に設置している現場搜索本部まで搬送し、午前中の訓練を終

了しました。午後からは防災ヘリを用いて白布・アルミロールマット・蛍光ピンクテープの上空からの視認状況確認を実施しました。また、航空隊員から車載用発煙筒をヒノキ人工林で発火した状況を確認したいとの要請が



林内を搬送訓練中

あり実施しましたが、ヘリからは全く認識されませんでした。ヒノキの人工林では樹冠部分が5m四方以上開いていないと発見できなかった。今後、本山三署の連携を密にした山岳救助や大規模災害に備えた訓練を実施したいと考えています。

その後、当森林管理署員から衛星電話による一九へ救助を要請し航空隊と通信しながら防災ヘリの「右側面が見えています」といった誘導訓練を実施しました。

防災ヘリが上空に到着し隊員二名が降下し、まずは負傷者（消防隊員）一名をピックアップ、その後、当森林管理署職員が演じる負傷者一名（約七〇キロ）をピックアップし高知県本山

町内のヘリポートまで搬送し訓練は終了しました。

反省会のなかで今後も続けて行くことを確認しました。今後は、本山三署の連携を密にした山岳救助や大規模災害に備えた訓練を実施したいと考えています。



一〇月二五日、高知県馬

路村魚梁瀬で毎年開催されている魚梁瀬地区村民運動会に安芸森林管理署チームとして、署職員、魚梁瀬合同森林事務所員及びその家族、四十万森林管理署よりY氏、T氏が参加しました。



一位を勝ち取った応援合戦

運動会は魚梁瀬地区のイベントであり、去年に引き続き晴天のもと、安芸署チーム以外にも馬路村農協チーム、丸山地区・魚梁瀬小学校チーム、役場・全日本チームが参加しました。

午前中の競技では、頭に風船をつけて棒で割り合う

という「源平合戦魚梁瀬の戦」と呼ばれる激しい競技が行われました。チームで一丸となり戦わないと後ろから割られるなど生存競争の激しい戦いとなりました。午前中では最大一〇点ほどの差がついており午後の競技で巻き返せる状況でした。昼休みには、各チームが準備・練習をしてきた応援合戦があり、今年も安芸署チームは即興で演舞を行い会場を沸かせることが出来ました。

午後からも「ザ・山師」などの安芸署チームが得意とする競技や「ぴったしカン」という村長が出した物と同じ物を当てないといけないという運を必要と

する競技などが行われ、接戦が繰り広げられました。最終種目である「ベストリレー」では各チームの選出されたメンバーがトラック一周を走りバトンを繋ぐという単純な競技です。安芸署チームは途中で一位に上

がりこのままゴールできると思っていましたが、バトンを落としてしまい最下位でゴールすることとなりました。

総合成績では四位という結果でしたが、応援合戦の一位となりました。本年も楽しく運動会に参加することができ、魚梁瀬地区の方々と交流を深めることができました。



一月二七日に、(株)エコアス馬路村の主催により、森林整備(保育間伐活用型)技術検討会が開催されました。

開催箇所は、今年度請負事業を実施している高知県馬路村魚梁瀬地区の宝蔵山国有林二一九林班で、当日は、アドバイザーとして馬路村森林組合及び高知東部森林組合、発注者として安芸森林管理署が参加し、総勢二五名での開催となりました。

本技術検討会は、保育間

伐活用型の技術向上を図るため、他の林業事業体や森林管理署にエコアス馬路村の間伐現場を見てもらい、率直な意見を頂き技術水準の向上につなげたいとの趣旨で開催されたものです。

現場は、面積二〇ha、予



森林整備技術検討会

定生産量一、二〇〇³mで、谷を挟んで両脇に尾根が平行して走っており、両脇の尾根を結んで谷を渡す形で三本の架線を張って、架線集材(ダブルエンドレスのホイスチングキャレッジ方式、スパン五五〇m)を行っています。谷から尾根の腹には既設の林道があり、そこに集材する形になっています。検討課題は以下の五課題でした。

① 森林整備(保育間伐活用型)の基本(目指す整備後の森林の姿とはどのようなものなのか、基本に戻って従業員全員の共通認識とする)

② 事業の進行管理と計

画的な事業実行

③ 選木及び伐倒技術の基本

④ 架線集材技術

⑤ 路網作設技術

①～④の課題については、基本的な項目を現地ですべて確認しました。伐根を見ながら伐倒技術などを確認するなかで、集材機の設置位置、横取り距離が長くなる場合の集材方法について、他の林業事業体から意見が出されていました。

⑤の課題については、これまで、同社は急峻な魚梁瀬地区を主な事業地としてきたため、作業路網作設の経験がなく、新たな取組として、今回、当初は架線集材としていた区域を作業路

網に変更することで、より集材率がアップする箇所があったことから、その箇所を作業路網区域とすることとし、丈夫で簡易な作業路網の作設方法について森林管理署から説明を行うとともに、予定路線の踏査と集材区域の検討を行いました。

エコアス馬路村は、今後、事業の範囲を広げていくためにも、路網作設技術の習得が必須と認識しており、全員が熱心に説明に聞き入っていました。その結果、作業路網を作設している現場を見に行き、路網作設の手順と技術を学びたいということになり、後日(二月二日)、他の林業事業体が作業路網を作設して

いる現場に勉強に行きま
した。

このように、今回の現地
検討会では、エコアス馬路

村が他の林業事業体に自分
達の現場を見てもらい、率
直な意見をもらうことで、
新たな技術の取得及び技術
の向上、さらには事業改善
意欲の向上に大きくつな
がり、とても有意義な検討会
となりました。



「中芸ゆずづくし展」 で木工作品をPR

〈安芸森林管理署〉

高知県北川村「モネの庭」
マルモッタン・フローラル
ホールで、東部中芸パビリ
オン特別企画として、一〇

月一七日から十一月二三日
まで、ゆずの産地である中
芸地域の魅力をPRするイ
ベントが行われました。

この企画展では魚梁瀬森
林鉄道ジオラマ展も同時に
開催されており、主催者か
ら、当署に、二日間、木工
教室及び森林鉄道等の木製
品の展示を依頼され、一〇
月一八日と十一月二三日の
二日間当署と技術普及課合
同で実施することとなりま
した。

木製品の展示は、機関車
等を模った「森林鉄道と四
季」、アニメチックに制作
された「中岡慎太郎と四季」
をなどを展示しました。

木工教室では、「カエル
のジャンプゲーム」や「ト

ロッコ列車」、「ドアノブ
飾り作り」の材料を持参
し作製してもらう予定で
したが、一〇月一八日は、

「モネの庭」への入園者は、
四〇〇名を越える人でした
が、当ホールへの入館者は
三〇名程度で、残念ながら、
木工教室の参加者はいませ
んでした。来館者は、県外
ナンバーが目立ち、モネの
庭への観光が目的で、何か
を作る、遊ぶということは、
時間的に余裕がなかったの
ではないでしょうか。

十一月二三日は、前回と
は違って中芸観光協会が事
前に地元の小中学校へ、チ
ラシを配布するなどして前
宣伝の効果があり、一二名
の親子の参加があり、ドア

ノブ飾りやトロッコ列車、
カエルのジャンプゲーム作
りに精を出していました。
その後、木製ビンゴゲーム
などのオモチャで遊んで、
ケロケロカエル、ジイジイ
ゼミをゲットし、さらに、
来場記念のカードやカレン
ダーをプレゼントされてと
ても喜んでしまし
た。

また、今回、
プレゼント初デ
ビューのふくろう
(不苦勞)の携帯
ストラップも大好
評で、用意してい
た三〇個がすぐに
無くなりました。

来館者は前回同
様大半の方がモネ

の庭への観光が目的でし
た、木工教室への参加は、
一二名だけでしたが、参加
者の方には、木の良さ、温
かさを肌で感じ取ってもら
い、「木」や「四国森林管
理局」のPRに少しは役に
立てたのではないかと考え
ています。



熱心に指導する技術普及課長